
昭和区の活動事例



昭和区

八事学区歩こう会



【八事学区】

■世帯数：4,013 世帯

■人 口：8,246 人

■面 積：1.168km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 八事小学校校庭を始終点とする、「八事学区歩こう会」を開催。参加者数は約 300 人。
- ・ スポーツ推進委員と子ども会役員を中心に実行委員会を設け、実施日時・コース・予算を決定。行程表を元に役割分担して準備を進める。当日は事故のないよう留意する。
- ・ 参加者は体力に応じて、設定された 3～4 コースから 1 コースを選択し、途中のチェックポイントでクイズに答えながら歩く。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示、学区広報誌への掲載

【アピールポイント】

20 年以上継続開催し、健康増進のため家族総員で参加する人も多く、毎年楽しまれている。参加賞を楽しみにしているグループも多い。

2 きっかけ、背景

八事学区は緑が多く起伏に富んだ昭和区でも数少ない土地柄であり、犬を連れた散歩や、ジョギングなど身体を動かすには最適な環境であることから、20 年以上前から継続開催している。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、消防団員、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員 計約30人

(2) 他団体との協力

地域団体

(3) 運営協力

子ども会、消防団を含む学区の各種団体

4 実施のスケジュール

H24年 実行委員会を設置し、行程表、スケジュールを設定する
7月

8月 コース・参加賞等を最終決定

9月 参加申し込み受付

10月 開催前日までに準備を完了させ、開催当日の早朝に参加賞（パン・菓子）袋詰め

12月 他の行事とともに反省会

5 成果と課題

(1) 成果・効果

住民間・家族の絆が深まった。

(2) 苦労した点

屋外行事のため、当日の天候が一番の心配事。雨天中止の場合は事前準備した参加賞の食べ物を参加予定者に配分する。

(3) 今後の課題・展望

少子化・高齢化で参加者が減少傾向にあるが、根強い支持がある。



滝川学区親子ふれあいフェスタ



【滝川学区】

■世帯数：7,694 世帯

■人 口：15,231 人

■面 積：1.865k㎡

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 滝川小学校校庭を会場に、毎年「親子ふれあいフェスタ」を開催。多種多様な体験ブースや模擬店を設け、約 1,200 人が参加する。
- ・ 学童保育所によるもちつき、スポーツ推進委員によるニュースポーツ体験や、病院提供の健康チェック、消防署によるレスキュー体験、模擬店（もち、豚汁、フランクフルト、みたらし、五平もち）などが出店する。
- ・ 区内官公署及び学区内事業所によるブース出展のほか、和太鼓、フォークダンス、防犯対策等の実演、体験などのアトラクションも行う。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示

【アピールポイント】

子ども（特に幼児から小学生）向けのイベントを増やすことで多数の親子連れの参加を得られ、毎年好評をいただいている。

2 きっかけ、背景

各町内会での住民の交流や連携をさらに深めるため、一部の町内会で試行的に実施した「もちつき大会」を学区単位に拡大させるとともに、それに様々なイベントを加えることにより規模を大きくした。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員、学童保育所指導員および保護者など 計約 280 人

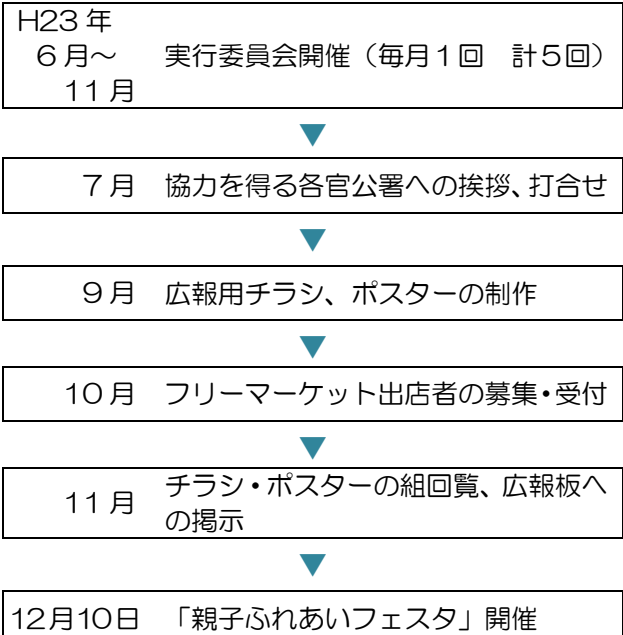
(2) 他団体との協力

区内官公署、自衛隊、学童保育所、地域企業、病院、大学など

(3) 運営協力

各団体から委員を選出してもらい実行委員会を組織し、当日の運営にも従事してもらう。各町内からも運営協力を得ている。

4 実施のスケジュール



5 成果と課題

(1) 成果・効果

毎年開催するたびに参加者が増加しており、住民間の交流が深まっている。

(2) 苦労した点

活動の担い手が不足している。当日従事できる人数等に限りがあり、一部の人に仕事が偏る傾向がある。

(3) 今後の課題・展望

新しい内容を取り入れることや、若手の取り込み、従事者の負担軽減、各事業所からの協賛金の安定確保等が今後の課題である。

(4) メッセージ・アドバイス

最初から規模を大きくすると継続が困難となるため、できることから始め、様子を見ながら大きくして行く方がやりやすいと思う。



新春親子ふれあいなわとび大会



【広路学区】

■世帯数：5,715 世帯

■人 口：10,910 人

■面 積：0.943km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 広路学区まちづくり推進協議会と広路学区子ども会共催で「新春親子ふれあいなわとび大会」を毎年 1 月に開催。会場は広路小学校で約 450 人が参加。
- ・ 幼児から小学 6 年生の部と大人の部の個人戦と“おおなわとび”の団体戦があり、子ども会で参加者（親子）を募集する。本部は子ども会役員が担当する。
- ・ スポーツ推進委員や学区体育委員が審判を担当。
- ・ 参加者には前日より民生委員・女性会で準備した豚汁とつきたてのお餅を提供。参加者は“マイお椀＆マイお箸”を持参してもらい、保健委員会とのタイアップでゴミを出さない工夫をしている。

【住民への PR 方法】

子ども会で参加者を募集

【アピールポイント】

ルールを簡単なものにするにより、参加者が増加した。親子で楽しめる。参加賞の豚汁とつきたてのお餅を、参加者の子どもたちが「マイお椀」「マイお箸」で食べることでゴミ減量の意識を高めることができる。子ども会だけでなく、学区の団体みんなで支えている行事である。

2 きっかけ、背景

なわとび大会を選択した理由は、ルールが簡単であり、誰でもできるスポーツであること。子どもたちだけを対象にすると、子ども会役員の負担が多くなるため、学区皆でサポートできる方法を考え、保護者も参加するようにして、多くの団体・ボランティアの協力を得て開催している。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

民生委員児童委員、保健委員、女性団体・女性会、子ども会、スポーツ推進委員、体育委員、子ども会ボランティアなど 計約80人

(2) 他団体との協力

区子ども会ボランティア

(3) 運営協力

子ども会の若い保護者や、他団体の人にも参加してもらい、それぞれの役割を知ってもらうことで自分たちだけが大変ではなく、分担すれば子どもたちが楽しむ行事ができると分かってもらえるのではないかな。

4 実施のスケジュール

H23年 5月 広路学区連絡協議会（まちづくり推進協議会）事業計画承認



11月 子ども会理事会（参加者募集）



12月 学区連絡協議会役員打合せ（参加者数集計）



H24年 1月 体育委員会（当日の審判打合せ）



1月27日 なわとび大会備品、食材（豚汁、餅米）準備



1月28日 なわとび大会開催 AM7:30 集合

5 成果と課題

成果・効果

参加者の増加、住民意識の深まり、住民間の交流の深まりに役立っている



川原学区運動会



【川原学区】

■世帯数：5,146 世帯

■人 □：9,998 人

■面 積：0.899 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 川原小学校運動場を会場として、毎年秋に、「川原学区運動会」を開催。参加者数は約 800 人。
- ・ 町内会長をはじめスポーツ推進委員や、子ども会、PTA などの各種団体長や各クラブの同好会員による実行委員会を立ち上げ、企画実施している。
- ・ 学区内の事業所・店舗などにプログラムの広告掲載賛同店として協力を依頼し、運営資金を得ている。
- ・ スポーツだけでなく、消防音楽隊による演奏や親子での防火訓練なども行う。

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配布

【アピールポイント】

多くの団体が参加することにより、準備段階から活発な交流が行われ、各種団体間の輪も広がっている。このことが今後の学区の活動においても大変有意義なものとなっている。

2 きっかけ、背景

地域住民の相互の交流や、親子のふれあいの場として、平成 24 年度で 27 回を数える恒例の学区行事となっている。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員 計約 125 人

(2) 他団体との協力

地域団体



4 実施のスケジュール

毎年 4 月 実行委員会開催。開催日時の決定



6 月 実行委員会開催。役割分担決定。プログラム広告掲載賛同者の募集について打合せ



8 月 実行委員会開催。大会プログラム、競技運営マニュアルの作成



9 月 大会プログラムの各戸配布



10 月 当日必要資材の購入



大会前日 会場設営。当日の役割再確認



大会開催 終了後は反省会を開催

5 成果と課題

(1) 成果・効果

親子のふれあいや、近隣・地域のコミュニティ活性化の一助の場として、青少年はもとより、老若男女を交えての大きな大会となっており、地域の交流には大いに役立っている。

(2) 苦労した点

運動会の運営資金となるプログラムの事業所等の広告掲載賛同者の協力依頼に苦労している。

(3) 今後の課題・展望

活動の継続、協力者の確保が難しい点をふまえ、開催を隔年にしてはどうかとの意見があるが、子どもたちが大変楽しみにしているなどの意見もあり、今後の検討課題となっている。

ワンニャン会(街の中からうんちの撃退)



【伊勝学区】

■世帯数：4,098 世帯

■人 口：7,080 人

■面 積：0.783 k²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

① ワンニャンパトロール

会員が「ワンニャンパトロール隊」のたすきをかけ、犬の散歩をしながら飼い主のマナー向上の啓発や地域の防犯パトロールを行う。

② 美化活動への参加

クリーンキャンペーンや学区大掃除の日などにワンニャン会として参加し、ごみ拾いを行う。

③ 飼い主のマナー向上啓発

飼い主のマナー向上啓発のため、手作りの看板を設置する。

【住民への PR 方法】

伊勝保健委員 39 人で飼い主の全戸調査から入会まで全てを行った

【アピールポイント】

近隣学区の飼い主からも入会希望があり、活動の輪が広がっている。ふんの後始末等、飼い主の自主的なマナー向上活動推進にとどまらず、防犯等の面でも地域に貢献している。ペットの飼い主同士が普段から連携することで、災害時のペットの問題など共通する課題についても意見交換ができる。

2 きっかけ、背景

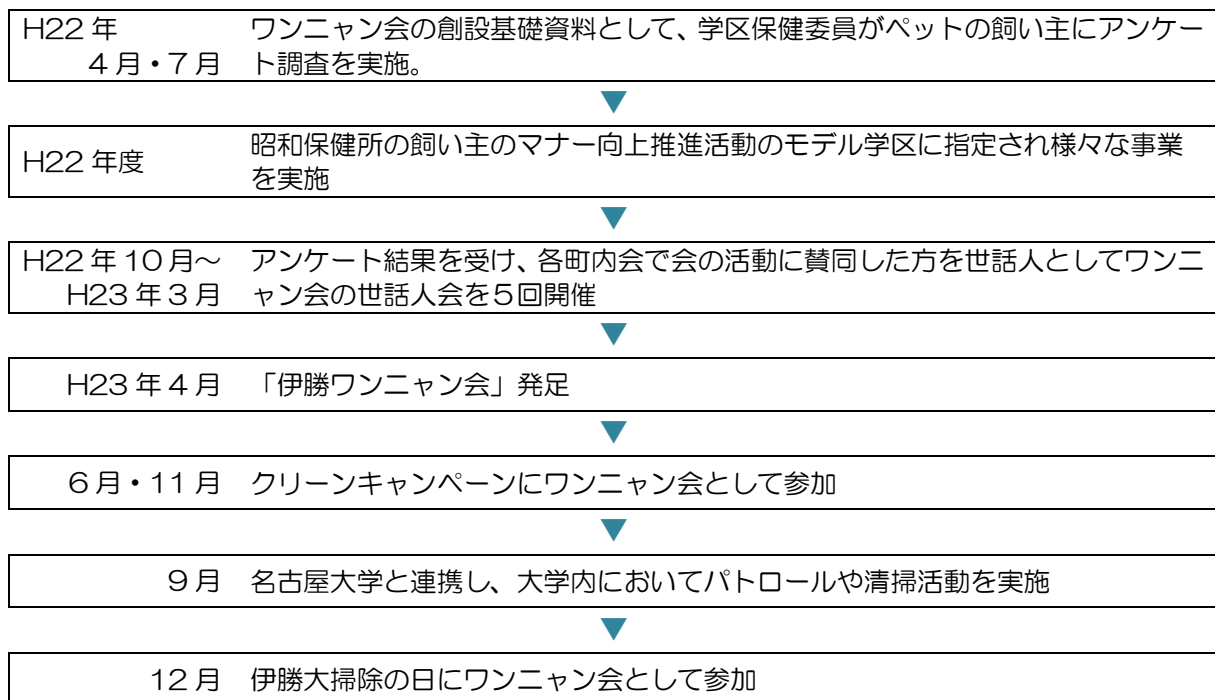
以前から犬猫のふん対策が地域の課題であり、平成 20 年に飼い主の集まりを創設しようとしたが、大きな集まりとはならなかった。平成 22 年度に伊勝学区が飼い主のマナー向上推進活動のモデル学区に指定され、様々な事業を行ったことをきっかけに、災害時のペット対策や防犯など、ふん対策以外にも視点を広げることで賛同者が増え、平成 23 年にワンニャン会として発足することができた。

3 実施の体制

- (1) 運営メンバー
保健委員、地域住民 計 39 人
- (2) 他団体との協力
保健委員会、昭和保健所



4 実施のスケジュール



5 成果と課題

- (1) 成果・効果
住民意識の高まり、交流の深まり。飼い主同士が連携して取り組むことでネットワークづくりに役立った。
- (2) 苦労した点
飼い主は個人の 3～5 人程度の集まりが多く、それぞれ結束していたため、町内ごとのような全体の集まりを創設することへの理解が得られにくかった。
- (3) 今後の課題・展望
現在の飼い主 317 軒のうち会員となっているのは 227 軒であり、全員参加を目指したい。
- (4) メッセージ・アドバイス
発起人や関係者がやる気になって多くの賛同者を得ることにより事業が発展していく。

ふるさととのふれあい



【松栄学区】

■世帯数：8,376 世帯

■人 口：16,699 人

■面 積：1.277k㎡

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 松栄小学校体育館及び各教室において、小学生と地域の大人との交流会「ふるさととのふれあい」を開催。対象は小学3年生約 120 人と大人約 40 人とする。
- ・ 6月と翌年2月の2回開催し、1 回目は体育館に集まり、小学生5～6人、大人2～3人のグループに分かれて、地域の歴史について話したり、伝承遊びを行ったりする。2回目は各教室に分かれて、子どもたちの質問に答える。
- ・ 子どもたちは歌や踊りを披露する。

【住民へのPR 方法】

大人の参加者は協力団体がそれぞれに募集

【アピールポイント】

地域の世話やき活動を推進する原動力になる。

2 きっかけ、背景

青少年の健全育成は学校、家庭、地域が一体となって取り組まなくてはならないという考えから、関係者が協議し、地域の大人と小学校3年生児童の交流を行うことを決定した。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、
民生委員児童委員、保健委員、消防
団員、PTA、女性団体・女性会、子
ども会、老人クラブ、スポーツ推進
委員 計約10人

(2) 他団体との協力

区政協力委員会、女性会、老人ク
ラブ、ホームファイヤーモニタース
クラブなど

(3) 運営協力

小学校の教員

4 実施のスケジュール

毎年4月 第1回開催日決定

5月 大人の参加者決定

6月 第1回開催

12月 第2回開催日決定

1月 大人の参加者決定

2月 第2回開催

5 成果と課題

(1) 成果・効果

住民意識が高まり、住民間の交流が深まった。地域の大人と子どもの絆がで
きる。大人が元気になる。

(2) 苦労した点

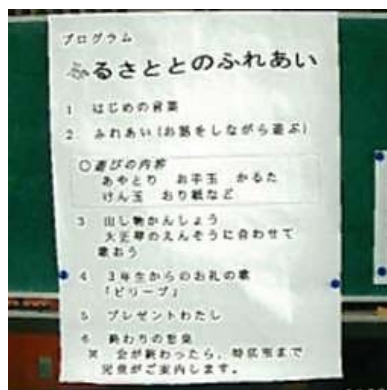
参加者の理解を得ること、他団体との協力。大人の参加者は各団体で募集す
るが、最近では希望者が定員を超えるようになった。

(3) 今後の課題・展望

活動の継続。今後も内容をさらに充実させて継続していく予定である。

(4) メッセージ・アドバイス

地域の方々が子どもの顔を覚えるので、道で会っても会話ができる状況をつ
くることができ、地域で子どもを育てる環境づくりに役立てることができる。



学区ふれあい盆おどり大会



【御器所学区】

■世帯数：5,397 世帯

■人 口：10,709 人

■面 積：0.948km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 毎年住民間の交流の場として盆おどり大会を御器所小学校校庭を会場に開催。参加者数は約 500 人。
- ・ 踊りになじんでもらうために事前に練習日を設ける。
- ・ 盆おどりの前に子どもたちにゲーム遊びで楽しんでもらう。
- ・ 平成 22 年より模擬店も始め、参加者の増加につながっている。
- ・ 併せて、消防団による消火訓練を行っている。また、昭和区女性交通安全クラブ員による東門・南門での交通安全活動を行う。

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配布と回覧、掲示板への掲示、コミュニティセンター、トワイライトスクールの入口に掲示。

【アピールポイント】

CO₂削減は家庭からということで、盆おどりの曲目に「みんなで減らそう CO₂」を取り入れ、事前にトワイライトスクールで子どもたちに練習してもらい本番で声高に『CO₂！』と言ってもらった。また消防団による消火訓練体験で防火意識が高まった。

2 きっかけ、背景

昭和 54 年を最後に途絶えていた盆おどり大会について「ぜひやってほしい」「なぜこの学区にはないのか」との要望があり、「安心、安全で快適なまちづくり」が地域課題となり、行政からの応援もあり平成 17 年に復活させた。以降毎年開催している。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、女性団体・女性会、子ども会 計約 9 人

(2) 他団体との協力

学区連絡協議会

(3) 運営協力

女性会の民踊部に各種団体や子どもたちを対象とした事前練習会での踊り指導を担当してもらっている。

4 実施のスケジュール

6 月 15 日 学区連絡協議会で時間・場所・内容などを決定、実行委員を各種団体から 1 人出してもらう。

7 月 10 日 第 1 回実行委員会 準備、催事内容、役割分担等を決定

7 月 25 日 第 2 回実行委員会 ゲーム賞品の買出し、やぐら組立などの最終打合せ。

8 月 4 日 盆おどり大会開催

8 月下旬 反省会

5 成果と課題

(1) 成果・効果

参加者の増加、住民意識の高まり、住民間の交流の深まり。夏の風物詩として、地域に定着した感がある。子どもたちの浴衣姿が年々増えている。

(2) 苦労した点

夜の解放感があるせいか走り回る子どもがいるので、場内警備に人員を当てている。最後に子どもたちに菓子袋を配るが、その方法に苦慮した。

(3) 今後の課題・展望

活動の継続、担い手の世代交代。やぐらの組立・解体は重労働なので、いかに若い力を確保するかが今後の課題である。

(4) メッセージ・アドバイス

大人はなかなか輪の中に入って踊ってもらえないので、極力声かけをする。車いすの人でも輪に入ってもらい、一緒に踊ってもらえるとよい。

吹上「ふれあい伝承あそび」教室



【吹上学区】

■世帯数：4,174 世帯

■人 口：8,009 人

■面 積：0.684 km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 青少年健全育成のための教室「ふれあい伝承あそび教室」を年に 4 回ほど開催。吹上小学校体育館を会場として、現在では 1 回に 60～70 人が参加するようになっている。年間の延べ参加者数は約 240 人。
- ・ 小学校が休みである第 2・4 土曜日の午前中に開催している。
- ・ 折り紙とその発展作品、土鈴づくり、押し花、しおり、お手玉、組紐人形、バルーンアート、ビーズ腕輪、紙芝居、こままわし、囲碁・将棋などの中から、毎回テーマを決めて指導している。また、活動を通じて異学年の交流を図っている。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示

【アピールポイント】

区政協力委員や、民生委員児童委員により運営されていたが、子ども会に運営をバトンタッチしたことで担い手の若返りを図った。

誰もが（幼児、老人、父母）参加でき、また参加いただける有志の方には進んで指導ができるような環境づくりを行った。

2 きっかけ、背景

平成9年に民生委員児童委員から発案があった。有志が進んで協力しはじめ、平成9年10月の土曜日からスタートした。スタート当初は、吹上学区の旧公民館で開催。参加者、指導者が自然に増え、将棋、囲碁、こままわし、お手玉、紙芝居、折り紙など種類も徐々に増えた。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブ、他学区ボランティアなど計約50人

(2) 他団体との協力

学区子ども会、民生委員児童委員会、更生保護女性会、老人クラブ、トワイライトスクール、ボランティア団体

(3) 運営協力

各種団体の役員にPRや協力要請をたびたび行っている。

4 実施のスケジュール

毎年4月 年間計画の策定

開催前月 チラシの作成と組回覧による周知

7月 第1回伝承遊び開催

9月 第2回伝承遊び開催

12月 第3回伝承遊び開催

2月 第4回伝承遊び開催

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- 参加者の増加、住民間の交流の深まり、担い手の増加。得意な分野で自由に参加・指導できる。

(2) 苦労した点

- 参加者の確保、活動の担い手が不足、他団体との協力。当初は周知が難しかったが、子ども会の協力を得て徐々に周知されていった。

(3) 今後の課題・展望

- 活動の継続、担い手の世代交代。中心となってテーマをみんなに問いかけ、それをまとめてチラシを作成し、回覧する等、地道な努力が必要であるため、人材の確保が重要な課題となっている。
- 活動資金の確保。

もちつき大会



【鶴舞学区】

■世帯数：3,245 世帯

■人 口：5,981 人

■面 積：0.977k㎡

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 鶴舞小学校校庭及び体育館を会場に、「もちつき大会」を開催。延べ参加者数は約 200 人。
- ・ 鶴舞学区子ども会が中心となり、PTA や区政協力委員の協力のもと、事前の資材調達や当日の会場設営などを行っている。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示、小学校児童へのチラシ配布

【アピールポイント】

小さい学区ながら、若い世代の人々が、地域の皆様とコミュニケーションを図りながら交流を促進し、自然とふれあう中で親睦を深めている。

2 きっかけ、背景

地域住民の交流と、子どもが参加することによる世代間の交流を活性化させるため、10 年前から実施している。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員、ボーイスカウト、更生保護女性会 計約 100 人

(2) 他団体との協力

地域団体（子ども会、PTA、区政協力委員など）

(3) 運営協力

子ども会やPTA に協力してもらうことにより、若い後継者の育成に努力している。

4 実施のスケジュール

毎年 10 月 広報用チラシ・ポスターの作成

11 月 チラシの組回覧、ポスター掲出、小学校児童へのチラシ配布
資材の調達、人材の確保

開催前日 用具一式の準備、食材準備

12 月 もちつき大会開催
(第 1 土曜日) 会場設営、当日運営、終了後の反省会



5 成果と課題

(1) 成果・効果

多くの団体の協力を得ることにより、地域住民や世代間の交流がより活発に行われ、学区の連携が深まった。

(2) 苦労した点

活動の担い手が不足。特にもちつきのつき手に適任である若い世代の男性が不足している。

(3) 今後の課題・展望

活動の継続が今後の課題。今後も継続させるためには、より多くの住民に参加を呼びかけることが重要である。

村雲学区グラウンドゴルフ大会



【村雲学区】

■世帯数：3,763 世帯

■人 口：7,815 人

■面 積：0.715k㎡

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 毎月第 1・3 日曜日 13 時から定例会を実施（1 月・8 月は休み）。
- ・ 春と秋、年 2 回福祉グラウンドゴルフ大会を開催。
- ・ 小学校 PTA 親子ふれあいグラウンドゴルフ大会を村雲小学校グラウンドで開催。
- ・ 延べ参加者数は約 350 人。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、例年の参加者からの口コミで広がっている。

【アピールポイント】

定例会等の当日運営や後片付けには多くの参加者の協力をいただき、学区の輪が広がっている。

2 きっかけ、背景

- ・ 高齢者のたまり場づくり、小学生との交流の場づくりとして活動。
- ・ 平成 15 年に有志と体育指導委員のメンバーにより開催に向けた組織づくりや勉強会を実施。
- ・ 平成 16 年に有志と体育指導委員に加え学区福祉推進協議会の呼びかけで第 1 回グラウンドゴルフ大会を実施。

- ・平成 18 年から第 1・3 日曜日に定例会として開催。
- ・平成 21 年から学区福祉推進協議会の春秋大会と PTA 親子ふれあいグラウンドゴルフ大会も学区行事の一環として開催。現在に至る。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、PTA、老人クラブ 計約 6 人

(2) 他団体との協力

スポーツ推進委員、学区福祉推進協議会、学区 PTA など

4 実施のスケジュール

毎年 3 月 会場の確保など

大会前月 大会の開催日時を組回覧により周知
(定例会については組回覧を行っていない)

1 月 年間優良選手の表彰、反省会
翌年度計画の策定



5 成果と課題

(1) 成果・効果

毎年参加者が増加し、地域住民の交流が広がっている。特に高齢者の積極的な参加が増え、健康増進にも役立っている。

(2) 苦労した点

活動の担い手が不足。町内会長、自治会長のうち、主に 60 歳代の男性が協力者として運営されており、若い人の協力がなかなか得られない。

(3) 今後の課題・展望

担い手の世代交代が今後の課題。早急に次の世代の運営協力者の育成が必要。現在は 60 歳代の人たちに積極的に声かけ等を行い、協力を呼びかけている。

白金学区相談窓口事業



【白金学区】

■世帯数：2,093 世帯

■人 口：4,116 人

■面 積：0.681 km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・地域の助け合いをサポートする相談窓口として、白金コミュニティセンターにおいて「相談窓口事業」を行っている。窓口は週2回開設。
- ・「住民による住民のための取組」「どんな小さな悩み事もOK」「相談窓口事業を通じた人間関係づくり」をキーワードに活動している。
- ・相談内容は荷物の運搬から子育ての悩み、話し相手まで幅広く対応する。
- ・相談窓口に協力をしていただける方に対して、ボランティアへの登録呼びかけを行っている。
- ・ボランティア交流講習会の開催

【住民へのPR方法】

チラシの各戸配布、回覧、ポケットティッシュの配布や地域の店舗による周知

【アピールポイント】

相談窓口に設置されたパソコン活用のために開催されたパソコン教室など副産物もあり、多方面にわたって学区の活動が活発となった。

2 きっかけ、背景

平成 21 年度に策定された「第2次昭和区社会福祉協議会地域福祉活動計画」により、平成 22 年に説明会が行われ、平成 23 年6月から開始した。地域に根付いた活動として「白金学区相談窓口」が開設された。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、
民生委員児童委員、保健委員、消防
団員、PTA、女性団体・女性会、子
ども会、スポーツ推進委員
計約 20 人

(2) 他団体との協力

白金女性会、民生委員

(3) 運営協力

社会福祉協議会と連携した住民に
よる取り組みであり、住民のボラン
ティア活動への理解や協力が必要。

4 実施のスケジュール

H21 年 「第2次昭和区社会福祉協議会地域
福祉活動計画」が策定される。
その一環として相談窓口プロジェク
トチーム発足。白金学区での開設決定

H22 年 開設に向けて準備事務が始まる

H23 年 6 月 「相談窓口事業」スタート

H24 年 1 月 「ボランティア座談会」開催

5 月 「窓口交流会」開催

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- 地域の呼びかけにより、人とのつながりが深まった。気軽な雑談等により、安心できる場所として定着しつつある。ボランティア活動により多くの交流ができた。

(2) 苦労した点

- 住民の理解を得ること、他団体との協力。
- 相談内容によっては、解決方法に苦慮する場合がある。

(3) 今後の課題・展望

- 活動を継続していくため、担い手や活動資金の確保、他団体との協力が課題である。
- 相談窓口の周知を依頼している店舗等に出向き、引き続き、啓発を依頼するなど、活発な活動の継続に努める。

